

知識探訪

多民族社会の横顔を読む
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

マレーシア・イスラム党 (PAS) 党大会と野党連合解体

塩崎悠輝 (日本学術振興会特別研究員)

日本人がマレーシアで長年暮らしていたとしてもポンドックという施設に立ち入ることは稀であろう。ポンドックというのはイスラムについて学ぶ施設であるが、学校というよりも、老若男女のムスリム(イスラム教徒)が、多くは住み込みで、期間もバラバラで、ともに生活しながら学ぶ共同体である。学ぶ者はポンドックの主催者であるトゥ・グルと呼ばれるイスラム学者に弟子入りすることになる。

マレー半島ではポンドックは20世紀前半に最盛期を迎え、特にクランタン、トレンガヌ、クダーなどに数多く見られたが、その後、政府による近代学校制度の整備などにより、現在では伝統的なポンドックはほとんど姿を消した。マレーシアの野党の一部を占めるマレーシア・イスラム党(PAS)の党組織は、創立以来ポンドックのトゥ・グルたちやその後裔のイスラム学者たち(ウラマー)によって担われてきた。

マレーシアの政権を担当し続けてきた統一マレー人国民組織(UMNO)は、さまざまなマレー人団体の連合体として1946年に設立された。UMNOは当初ポンドックやウラマーも組織に取り込もうとしたが決裂し、56年の総選挙に際してPASは独自の政党として政党登録した。以後、マレー人の全体的な支持を得ることで安定した政権を確立したいUMNOにとってPASは最大の障害であり続けてきた。一方でPASは党組織を拡大し続け、現在では党員100万人と称し、マレーシアの政党でも最大の動員力を有する。

ポンドックのトゥ・グルたちは政治に参入する目標として、「イスラムの教義(シャリーア)に基づいたイスラム国家」ということを主張し続けてきたが、その具体像はあいまいであり、国政レベルの政策、例えば経済政策や非ムスリムへの対応についても関心が薄かった。そのためPASではウラマーは、いわば党のオーナーのような意識を持ちつつも、高等教育を受けた専門知識を持つ人材を迎え入れて選挙の候補者として擁立するということが当初から見られた。特に70年代にアンワル・イブラヒム(後の副首相)らのイスラム系学生運動が活発化すると、その経験者を数多く迎え入れた。

2015年6月に開催されたPASの年次党大会では、野党連合である人民連盟を構成する3党の中の民主行

動党(DAP)との連合を断つ、という決議が党内外で物議を醸した。党大会で選出された新指導部はほとんどがウラマーであった。これまで野党連合を支持してきたのはイスラム系学生運動出身者が多くアンワル元副首相の支持者が多いが、新指導部では選出されなかった。ウラマーの一部は党大会前から野党連合からの離脱を画策しており、その一環としてハッド刑(シャリーアで量刑を定められた刑法、複数形はフドゥード)の施行のための法案を下院に提出した。

窃盗犯の手首切断や婚外性交渉を行った既婚者への石打による処刑で知られるハッドは、サウディアラビアやイラン、ターリバーン、近年ではイラクとシリアでイスラム国を名乗って活動する勢力が施行していることに見られるように、世界中のイスラム運動が共通して掲げる政策である。PASもまたハッド刑の施行を従来から主張し続けてきたが、最近改めて法案として提出したのは、DAPとの決裂を促すための政争の一手段という側面があったであろう。

ウラマーの中でも、長年PASの最高指導者を務めクランタン州の首席大臣でもあったニック・アブドゥル・アジズ・ニクマは、野党連合による政権奪取を通してイスラム国家を実現するという路線を優先していたが、15年初めに死去した。その後、PAS総裁のアブドゥル・ハディ・アワンらによるDAPとの決裂を促す画策が活発化した。ウラマーの多くは、野党連合よりもUMNOとの協力の方にハッド刑施行を含むイスラム国家実現の可能性が高いと考えているとみられる。党大会後、野党連合の解体、PAS党内の分裂といった新展開が起きると見られたが、いずれも実際は未確定であり、今後もしばらくはPAS党内や野党間での画策が繰り広げられると見られる。

< 筆者紹介 >

1977年愛媛県生まれ。同志社大学神学研究科博士後期課程修了。専門は、東南アジアのイスラム法学、中東から東南アジアへのイスラム思想の影響。